

## Z107a 本邦における近代西洋星座名の変遷とその背景

小林道生

天文学で「星座」が使われる機会は、突発天体や大規模構造、流星群の名称などに限定されてきており、今や天文学史や天文文化との学際領域にある研究対象と言える。本邦においては、古星図・星表に関しては優れた先行研究があるが、星座の伝承や近代星座の成り立ちについてはまだ十分に手が着けられていない。そのため、それらを解説する文献は内容が不正確かつ不十分なものがほとんどである。

現代の88星座の日本語名は、1994年刊行の『学術用語集天文学編（増訂版）』で改訂されたリストが最も新しいものである。このリストに至るまで一世紀以上の間に星座の呼称は様々に変化していった。この名称の変遷には先人たちの創意と工夫が織り込まれてきたはずであるが、残念なことに近代西洋星座の流入から現行の星座名に定まるまでの経緯を深耕した研究は管見の限り確認できず、原恵の『星座の神話』で僅かに解説された以上のものを見つけることはできなかった。

かかる状況を踏まえ、本講演では、明治から20世紀末まで約120年に亘る近代西洋星座の日本語名の変遷を辿り、それらが大きく変化した節目となる時期とその背景について調査した結果を報告する。